



くれないとおどしほらまき 《紅糸威腹巻》 桃山時代（16世紀） 公益財団法人永青文庫所蔵

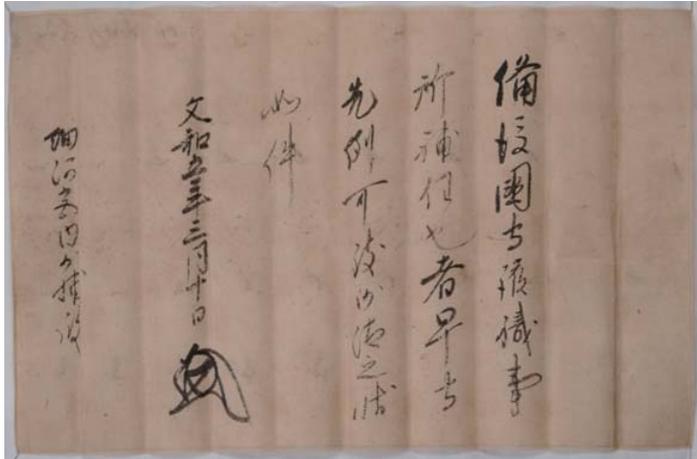
ほそかわゆうさい 細川幽斎が用いていた はらまき 腹巻形式の かつらゆう 甲冑です。「腹巻」は、鎌倉時代後期に下級武者用の簡便な甲冑として登場しました。初めは胴と草摺のみの甲冑でしたが、やがて重武装化していき武将も着用するようになったのです。本品は、全面に紅糸を用いた品格あるもので、幽斎の甲冑としては現存唯一のものです。江戸時代のなかばに大修復されましたが、近年、経年劣化が著しくなってきたため、平成21年度に「永青文庫常設展示振興基金」によって修復され、見事に往年の英姿が甦りました。（有木芳隆）

本館 2階永青文庫常設展示室開室記念展

# 細川家の歴史と美

会期 4/28(土)～7/1(日)

会場 本館 2階会場 第1室および第2室。※第3室は「新収蔵品展」



《室町將軍家御判御教書》(足利義詮が細川頼有を備後守護に任じたもの)  
文和5年(1356)3月10日 永青文庫蔵(熊本大学附属図書館寄託)



《浅葱地御所解文様小袖》江戸時代後期・19世紀  
熊本県立美術館所蔵(撮影 大八木威男)

当館では、平成20年4月に「細川コレクション 永青文庫展示室」をオープンし、公益財団法人永青文庫の美術工芸品や古文書を常設展示してまいりました。文庫室は開館から4年間を経て、すでに14万人近くのお客様にご観覧いただいています。もっと多くの永青文庫所蔵品を鑑賞したいという県民各層からのご要望にお応えして、このたび本館2階展示室の第1室をリニューアルし、永青文庫常設展示室としてオープンすることになりました。新展示室には、最新式のLED照明装置や高透過ミュージアムグラスを使用した展示ケースが装備され、永青文庫の美術品も格段に鑑賞しやすくなります。

今回は、新・永青文庫展示室のオープンを記念して、新展示室だけでなく第2室も併用して「細川家の歴史と美展」を開催することになりました。本展は、永青文庫が所蔵する美術工芸品と古文書を中心にして、中世以来の大名である細川家の歴史を紹介するとともに、貴重な美術品の数々をご鑑賞いただくものです。

## 【第1・2室】前期展示4/28(土)～5/27(日) 後期展示5/29(火)～7/1(日)

今回の展覧会は、部門別に構成する予定です。【武器と武具】コーナーでは、細川家の甲冑や、細川三斎所用《脇差「彫貫盛光」》(出水神社蔵)などの細川家ゆかりの名刀、陣太鼓などの武器武具を展示。【大名調度と装束】コー



《菊唐草蒔絵髮台》江戸時代後期・19世紀 永青文庫蔵



矢野良勝《領内名勝図巻》より 球磨川筋の部分(前期展示) 寛政3年(1791)頃 永青文庫蔵(熊本県立美術館寄託)

ナーでは、細川家の藩主夫人が用いた華やかな蒔絵の調度や装束を展示します。

【領内名勝図巻と御用絵師】コーナーでは、有名な《領内名勝図巻》を20分近くにわたって公開し、細川家の御用絵師であった「矢野派」の絵画を展示します。【古文書が語る細川家の歴史】コーナーでは、細川家の始祖・細川頼有ゆかりの中世文書、近世・細川家の初代・藤孝（幽齋）、二代・忠興（三齋）に宛てた織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の貴重な文書等を展示します。

また、当館では、平成20年度から「永青文庫常設展示振興基金」の補助を得て、永青文庫美術品の修復事業を進めてきました。これまでに修復を完了した甲冑や屏風絵などを、【甦った名品】コーナーで公開いたします。

本展は、永青文庫の古美術品や古文書を鑑賞できる絶好のチャンスです。ぜひご来館ください。（有木芳隆）

### 【第3室 新収蔵品紹介】

第3室では近年当館が収集した新しい収蔵品から、選りすぐった作品30点余を初公開します。まず今年度収集したマリー・ローランサンの油彩画《馬に乗る少女たち》を展示します。本作品は、柔らかなフォルムとパステル調の色彩を駆使したもので、美しい配色の妙が深い詩情を醸し出す全盛期の優品の一つとして知られているものです。

熊本ゆかりの作家である富田至誠の東京美術学校卒業制作《復習》も見ものの一つです。富田は旧制御船中学校の美術教師として、井手宣通、浜田知明など幾多の作家を育てた人物として熊本の近代洋画史の中で注目すべき人物です。また文化勲章受賞作家の牛島憲之の1930代を代表する《五月の風景》（写真）が母校熊本高校及び同窓会「江原会」から本館に寄託されました。牛島独特のユーモアあふれる牧歌的な詩情が画面から伝わる作品です。

また、創作版画の父と呼ばれた山本鼎の《デッキの一隅》を展示します。同作品は現在長野県上田市の「山本鼎記念館」と当館だけが収蔵するもので、日本の近代木版画の歴史を語る上で不可欠な作品です。このほか1900年代初めの版画連作「農民戦争」（全7点）でその名を不朽のものとしたドイツの女流画家ケーテ・コルヴィッツの同作品5点（写真はその一つ）を展示します。16世紀前半の宗教改革期のドイツで農民たちが反乱を起こした「ドイツ農民戦争」が題材です。厳しい精神と卓越した造形によって不滅の金字塔となった作品です。

このほか、油彩とテンペラによる混合技法で繊細な美の世界を追求した谷脇敬二の《FRUITS BOX—Gruppe der Brinden》（写真）、同じく混合技法により幻想的な作品を展開した牛島義弘の《化石の磁場》なども展示します。（古家良一）



牛島憲之《五月の風景》  
油彩・カンヴァス 1934年 熊本高校・「江原会」寄託



ケーテ・コルヴィッツ 農民戦争シリーズより《囚われた人々》  
エッチング・紙 1908年



谷脇敬二《FRUITS BOX—Gruppe der Brinden》  
油彩・テンペラ・板 1985-87年

第1期永青文庫展

# 近代細川家と絵画 — 護立コレクションを中心に —

会期 4/14(土)～7/1(日) 会場 永青文庫展示室

会期中、作品保護のため展示替えを行います。

第一期展示：4月14日～5月6日 第二期展示：5月8日～5月27日

第三期展示：5月29日～7月1日



23歳頃の細川護立(1883-1970)  
明治39(1906)年頃

歴代細川家にまつわる美術工芸品から近代日本を代表する美術作品を収蔵する永青文庫。そのコレクション形成に大きく影響を与えた人物のひとりに、第16代当主・細川護立の名を挙げることができます。護立は横山大観や下村観山といった著名な画家たちと交流しながら、洋の東西を問わぬ数多くの美術作品を収集。近代日本を代表するコレクターの一人として知られています。

本展は、その護立が収集した絵画作品を中心に展示するものです。しかし、単に護立コレクションを展示するだけではなく、展覧会の前半では、護立以前の近代細川家に伝わる絵画を展示することとしました。杉谷雪樵や近藤樵仙といった御用絵師の流れをひく画家たちは、明治20年に上京。護立の父である第14代当主・細川護久の求めに応じ、邸宅の杉戸絵や別荘の図など、いわゆる「御用画」を描く一方、国内の展覧会に出品するなど、画家としても活躍しました。幼少期の護立は、このような絵画を目にしていたでしょうし、ひょっとしたら、後にコレクターとして活動する素地の一端ともなっているのかも知れません。

この時期の作品では、近藤樵仙《園遊会之図》が特に注目の一点です。この作品は第15代当主護成が、在京熊本出身者を自邸に招き催した園遊会の様子を絵巻として記録したものです。「園遊会」というと華やかな印象がありますが、その内実は巨大な宴会。酔っぱらい池に飛び込む軍人や、ベンチで眠る紳士など、騒がしくもほほえましい会の様子が生き生きと描き出されています。

後半の護立コレクションコーナーの中で目玉となるのが、<sup>りん な せい</sup>菱田春草《林和靖》です。護立の近代絵画収集のきっかけは、明治41年に訪れた水戸での画会であったと伝えられます。この時護立は横山大観や下村観山、そして菱田春草の合計三

点の作品を購入しました。《林和靖》はその内の一点。今では近代美術史にその名を刻む画家たちですが、当時はまだまだ無名の存在。初の購入作品というだけでなく、護立の先見の明をうかがうことができる一点といえるでしょう。この作品は熊本初公開となります。

また、横山大観による《草花図杉戸》<sup>すすき もやいぶねずふすま</sup>《薄に舳舟図襖》《雲海図襖》も熊本初公開の作品です。大正9年頃の護立は、大観に自邸を飾る絵画を描かせています。近代細川家において自邸を飾る絵画といえば、雪樵や樵仙ら御用絵師の仕事。しかし、護立が選んだのは、最も親しく交流した画家大観でした。はっきりしたことはわかってはいませんが、お気に入りの画家に自らの周囲を飾る絵画を描かせることで、護立は近代細川家を自分色に染め直そうとしていたのではないかと、などと色々な想像をかきたてる作品です。第二室では、これらに併せて、《老子》や《野の花》といった作品を展示することにより、護立と大観の関係をたどります。是非ご覧下さい。(林田龍太)



菱田春草《林和靖》明治41(1908)年  
茨城県立近代美術館蔵  
(第一期・第二期展示)



近藤樵仙《葉山別荘之景》明治30(1897)年 永青文庫蔵(第三期展示)



横山大観《老子》大正10(1921)年  
熊本県立美術館蔵(第一期・第二期展示)

# 平成 23 年度スクールミュージアム活動報告

## ●スクールミュージアムとは

当館では本館収蔵作品を学校へ運んで学校を美術館にする「スクールミュージアム」を開催しています。平成 18 年度から開催され本年度で 6 年目となります。美術作品を鑑賞することで、子どもたちの芸術、文化を愛好する心情を育てると共に、保護者や地域の方々にも呼びかけてひろく本館収蔵品を知ってもらう機会としています。

実施する契機となったのは、平成 18 年度に学校の教師であった故・永野一成氏（1925～2005）の浜田コレクションが美術館に収蔵されたことでした。永野氏の遺志により教育普及に活用することになり、本物を使った学校での鑑賞授業が今まで以上に充実することとなりました。

浜田知明氏（1917～）は、熊本県出身で、現在も制作を続ける国際的な版画家・彫刻家です。その作品は、自らの体験に根ざした「初年兵哀歌シリーズ」で戦争の悲惨さや愚かさを告発し広く注目を集めるようになり、その後も、人間の生きる姿を鋭く見つめた作品を作り続けています。現代の子どもに浜田氏の作品を紹介することは、郷土の作家の作品に親しむと共に作品のもつ深い意味を感じさせることから、意義深いことと考えます。

来館者の感想は、「普段はあまりふれる事のできない芸術の世界を知るとはとても新鮮な気持ちでした。今度は、美術館で作品を鑑賞してみたいと思います。」（中学生）、「なかなか美術館には連れて行けないので、このような取組みは保護者にとっても大変ありがたいと思います。本物の芸術に触れることは子供時代には大切なことだと感じました。」（保護者）、「こちらの学校の子どもたちは、美術作品を間近で鑑賞する機会が殆どないため、大変よい機会になったと思います。今後も学校と美術館で連携し合っていることを期待しています。」（学校の担当者）等々。このような声を聞いて、本活動を実施する意義は大きいとあらためて感じました。

当活動により、浜田知明の版画作品が広く学校で紹介でき、子どもが学校にいながら本物の作品にふれる鑑賞の機会を提供することができます。子どもにとって学校における鑑賞教育が充実することは、将来にわたって美術を愛好する態度を育てることにつながります。活動を通して美術館と学校及び地域との連携の新しい関係性を紡ぎ出していけることを期待し、今後も本活動を継続していきたいと考えています。

## ●募集から実施までのながれ

4 月に県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校等に希望する学校を募り、地域性を考慮して 9 月から 12 月の期間に県内の学校 10 校で各 1 日実施しました。開催校が決まり次第、学校に赴いて担当の教師と話し合い具体的な実施計画を組み立てました。展示作品は浜田知明の版画作品と原板、あわせて 50 点の中から会場構成に応じた作品を決定し展示しました。当日の活動内容は授業参観や研究授業、文化祭で設定する等、開催校によって内容は様々です。（犬童昭久）



励徳小学校での様子



天草市立本町小学校での様子

### 【平成 23 年度開催校（開催日）】

菊池市立菊池南中学校	（10 月 14 日）
山都町立馬見原小学校	（10 月 21 日）
山江村立山江中学校	（10 月 26 日）
美里町立励徳小学校	（11 月 4 日）
芦北町立大野中学校	（11 月 13 日）
南阿蘇村立久木野小学校	（11 月 18 日）
天草市立本町小学校	（11 月 20 日）
八代市立八千把小学校	（11 月 25 日）
水俣市立緑東中学校	（12 月 2 日）
玉名市立陸合小学校	（12 月 11 日）



## 新収蔵品紹介

牛島義弘 USHIJIMA Yoshihiro (1947～2010)

《化石の磁場》 2005年

テンペラ、油彩・パネル 80.3 × 100.0 cm

牛島義弘は、昭和22年人吉市に生まれ、人吉高校、熊本大学を卒業後、京都市立芸術大学美術専攻科を修了し、オーストリア国立ウィーン造形大学に留学。R・ハウスナーに古典技法と現代と対峙する強靱な精神を学び、8年に渡る古都ウィーンでの研鑽を終え、京都で作家生活に入った。

ハウスナーが「牛島は、独創的で完璧に独立

独歩の芸術家だ」と評したように、美術団体には属さず、嵯峨野のアトリエから世界と時代を見つめながら制作し、個展を中心に発表。1980年代からは「両洋の眼・現在の絵画展」に招待される等、個性的な作風が注目を集めるようになった。

植木鉢の花、生き物のような紐、食事で残った魚の骨、ウィーンの公園で拾った鳥の死骸等が主なモチーフで、それら身近なものが変容され美しく幻想的な物語が紡ぎだされる。優れた色彩感覚は天性のものだが、下地作りがされた背景に卵テンペラのハッチングでモデリングする技法は、孤高の制作の中で獲得されたものである。化石もまた、ウィーン時代に見つけた牛島の絵画世界の重要な主人公である。生物が数万年の時間の蓄積を経て、鉱物と化し永遠の命を与えられる、その不思議な営み。《化石の磁場》について作者は「凝固した感性の化石」と言う。そして作品も「感性の軌跡であり、生命の軌跡」になると。

長く住みなれた京都を離れ、人吉に制作と生活の場を移したのは平成17年だったが、5年後の6月、62歳という若さで帰らぬ人となった。(井上正敏)

## ボランティアコーナー

### ボランティアガイド事情

近頃の展覧会会場にボランティアガイドの姿が見当たらない事にお気づきでしょうか。会場改修工事中の現在、ガイド活動は休眠中です。

ボランティアガイドの成り立ちについてご存知ない方も多くなったと思いますので流れを簡単に書いてみます。

- ・平成5年 友の会会員の一部分からボランティア会発足…図書整理、発送補助
- ・平成7年 解説ボランティア育成のための講座開始…日本美術史、西洋美術史
- ・平成8年 専門コース別講座開始…中世・近世美術、工芸、近現代、西洋、子ども美術館
- ・平成11年 ギャラリーツアー開始(企画展)
- ・平成14年 常設展(館蔵品)ガイド開始

最初は美術館側からの働き掛けがあり、途中からはボランティア自身で「コレクション学習会」「基礎研修」と自主的に研鑽を積み重ねました。常設展に限っても10年間のガイド活動を続けてきました。来館者と同じ視点から、を心掛けてきた私達ですが、その活動も過渡期に入ったようです。リニューアルした会場で、又みなさん方にお目に掛かれる事を願っております。(ボランティア・篠田邦子)



解説ボランティアの活動の様子

# 美術館友の会 — 美術館巡りの旅あれこれ —

## ●学芸員的な仕事

美術館の学芸員の仕事の一つに、展覧会の実施があります。企画を立て、関連の作品を集めて展示、鑑賞者と美術世界を結びつけ、理解を促す、美の饗宴の司祭的な仕事。

友の会の旅行担当世話人も、旅行地と美術館を選び、その地の美術の素晴らしさを力説して参加者を募って勉強会を開き、携行美術資料を作って現場で解説する。鑑賞者と美術世界を結びつけることでは似たような仕事をしています。

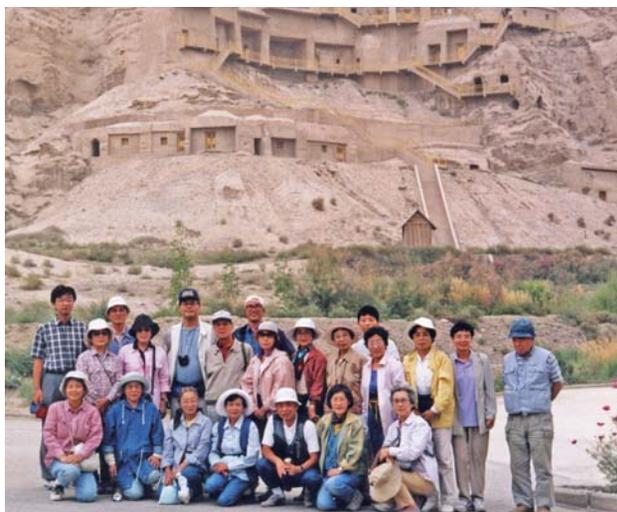
## ●参加人員

本格的な開始は平成元年からで、合計29回、参加者は延べ1,722人、国内の美術館巡りを加えると2,000人を超えます。

最初は、平成元年・36人、2年・67人、程度でしたが、やがて爆発的に増え、平成4年ドイツ、オーストリア以来100人台が続き、7年のトルコ、ギリシャでは何と146人。こうなると一緒に食事をするのも一苦勞、小さな都市では宿泊も困難とあって、北回りと南回りに分けたり、出発時期を1週間ずらしたり、と工夫が必要だったりしました。

## ●旅行地

最近ではヨーロッパが主ですが、平成7、8、9年には敦煌（珍しいシルクロードの雨を経験）や天山



キジル石窟にて（平成7年）



フィラデルフィア美術館にて（平成8年）

南路（開放されたばかりのキジル石窟を見学）、アンコールワットやボロボドールにも出かけています。敦煌では有木先生がご一緒に、普通の見学コースだけでなく、魏や唐など各時代の代表的な有料窟も解説付きで見ることが出来ラッキーでした。

また、平成8年にアメリカ東海岸に出かけていますが、この時ニューヨークでは世界貿易センター下のホテルに宿泊、夕食後展望台に出かけ、夜景を堪能しましたが、後年9・11の惨事を見て、本当に驚いたものでした。

## ●苦勞話

ただ、長い間にはいろいろなトラブルもありました。パスポートや財布の盗難事件があったり、ロンドンでの帰国便に乗り継ぎの飛行機が遅れ、一部の人がロンドンにもう一泊を余儀なくされたり、シルクロードではバスがあわや転覆かと思ったほど傾いたことも。

それでも美の女神に守られた幸運の旅行団は無事旅行を続けています。（友の会・村上了一）

## ◆友の会法人会員一覧（3/1現在）

まるぶんトラベルコーナー、熊本学園大学、熊本朝日放送株式会社、宇城市不知火美術館、崇城大学芸術学部、つなぎ美術館、南九州コカ・コーラグループ共済会、（資）入江商会、株式会社香梅、白鷗書道会、九州産交ツーリズム㈱、近畿日本ツーリスト株式会社

4月22日(日)	<b>子ども美術館</b> 「親子で楽しもう！永青文庫鑑賞のツボ」	10:30～12:00	本館講堂
5月3日(木・祝)	<b>ミュージアムセミナー</b> よみがえった名品－「狩猟図」と「帝鑑図屏風」－ 学芸員 金子岳史	13:30～15:00	本館講堂 事前申込不要
5月20日(日)	<b>子ども美術館</b> 「親子で能たいけん」	10:30～12:00	本館講堂
6月9日(土)	<b>講座 細川コレクション</b> 「近代細川家のなりわいについて」 大阪大学名誉教授 猪飼隆明氏	13:30～15:00	本館講堂 事前申込不要

熊本県立美術館実技講座のご案内

テンペラ (10日間・定員15名) 5/22(火)～26(土)、5/29(火)～6/2(土)	時間 13:30～16:30	場所 本館講堂	※ 要事前申込
クロッキー教室 (5日間・定員30名) 9/9、16、23、30、10/7 (何れも日曜日)			※ 実技講座は講座毎に事前申込が必要です。往復はがきに希望講座名、住所氏名、電話番号を明記のうえ、講座の1ヶ月前までに申し込んでください。各々教材費が必要です。
版画 (木版) (5日間・定員15名) 11/6(火)～10(土)			※ クロッキー教室は大人(専門学校在生以上)のみ、5回一括申込みとなります。

これからの展覧会

平成24年(2012)年3月～6月

本館			分館				会期	
本館1階	本館2階	細川コレクション永青文庫展示室	ギャラリー	分館1階	分館2階	分館4階		
2階展示室改修工事の影響により閉室 崇城大学芸術学部卒業・修了制作展 3/6～3/11	展示室改修のため閉室	中国の美術 —石仏の美— 1/7～3/25 — 一般200円(150円) 大学生120円(100円) 高校生以下無料、障がい者手帳をお持ちの方は無料 ( )は20名以上の団体料金	東光会会員4人展	熊本県立自然公園内 前岳保護者の会12人展	書き初め席書展	第31回尚絅大学卒業書作展	2/28～3/4	
産経国際書会代表展・熊本展 3/20～3/25			第30回 RKK学苑 日本画教室作品展	第24回 熊工会美術展	熊本大学教育学部美術科 在科生展	熊本大学教育学部美術科 卒業・修了制作作品展		3/6～3/11
藤城清治の世界展 3/30～5/13 TKUテレビくまもと・西日本新聞社 熊本県立美術館 — 一般1200円(1000円) 大学・高校生800円(600円) 中学・小学生500円(300円) 障がい者手帳をお持ちの方は無料 ( )は前売り料金			第34回熊日本画協会展 5/15～5/20	近代細川家と 絵画 —護立コレクションを中心に— 4/14～7/1 — 一般200円(150円) 大学生120円(100円) 高校生以下無料、障がい者手帳をお持ちの方は無料 ( )は20名以上の団体料金	グループ茜展	日本風景写真協会 熊本支部第6回写真展	3.11ユニセフ東日本 大震災報告写真展	第25回 国際文化 交流会 選抜臨書展
第34回熊日本画協会展 5/15～5/20	本館2階永青文庫常設展示室開室記念展 細川家の 歴史と美 4/28～7/1 — 一般260円(190円) 大学生160円(120円) 高校生以下無料、障がい者手帳をお持ちの方は無料 ( )は20名以上の団体料金	夫婦展	小型条幅展		おーるすたー展	第32回 熊本 美術科同窓会展		3/20～3/25
第40回記念熊本県美術家連盟展 6/5～6/10		九州産業大学芸術学部学生作品展 6/12～6/17	第1回 肥後もっこす 3人展		花の会熊本支部 写真展	はがき絵・テッパン、水彩画・ 後藤久美子原画展	第15回 遊美塾写真展	
第31回熊日新鋭・学童書道展 6/19～6/24	第3室は新収蔵品展 「細川家の歴史と美」・「近代細川家と絵画」共通観覧券 一般400円(300円)、大学生240円(180円) ( )内は20名以上の団体料金です	水墨画三人展	第10回 江原写友会展		「曹亜鋼水墨芸術学院」 熊本教室作品展	千州会 心豊かに 趣味の水墨画展		4/3～4/8
九州産業大学芸術学部学生作品展 6/12～6/17		井島秀夫個展 ～風景・心象	第52回 白鷺書道展				4/10～4/15	
第31回熊日新鋭・学童書道展 6/19～6/24		第34回 虹の会版画展	アポア会展 熊本県 薬剤師会美術同好会		アート雅会員作品展 「花と光のフェスタ」	第21回 日専連 全国・くまもと 児童版画コンクール (4/23は月曜休館)	雅押花の会会員作品展 「第13回火の国 押花フェスタ」	
		寺本銀子86才 心の写経	第25回 紅華会書作展	第2回 再興南枝塾展	風のいる KUMAMOTOK INAWA VOL. 3	日洋会熊本支部展	4/24～4/30	
		松村巨ペン画展	第2回 再興南枝塾展	島田樟藤生誕100年 記念書作品展	写真二人展 松倉卓志 松倉佑美子	ニッコールクラブ 熊本支部写真展	5/2～5/6	
		第34回 虹の会版画展	熊本デジカメ倶楽部 写真作品展	第65回 示現会巡回熊本展			5/8～5/13	
		九州産業大学芸術学部学生作品展 6/12～6/17	九州コンテンポラリーアート 2012				5/15～5/20	
		第31回熊日新鋭・学童書道展 6/19～6/24	第8回 石交会 墨のアート展	日本画工房 浮島館	尚絅短期大学同窓会 花桜会60周年記念 花さくら会作品展	ビビビの天鴻 グループ書展	5/22～5/27	
			春山千州水墨画展 「詩を描く」	第11回 熊日水墨画 教室合同作品展	2012 ART SCHOOL あとろえパリュエー展	第2回 Kyusyu Artist Group展～九州産業大学 芸術学部同窓会展～	5/29～6/3	
			山弘孝 写真展 神宿る山と溪	2012 熊日デザイン賞展	古市明美個展	C・A・F・N・ KUMAMOTO	6/5～6/10	
			写画あけぼの会第38回 写真展「野の花」と「風景」	第24回 熊本の建築家作品展	第29回 熊日女性絵画展 入賞・入選作品展		6/12～6/17	
			RKK学苑 金曜洋画教室展	熊本独立作家展	一般社団法人 二科会 写真部 熊本支部写真展	第27回 維熊豪会 「書法篆刻展」	6/19～6/24	
							6/26～7/1	

【あとがき】

二の丸公園では、厳しい寒さに耐えた木々が芽吹きを迎えようとしています。今春、本館2階第1室の改修が終了します。新しい空調設備、LED照明を備えた充実した展示室で熊本が誇る美術品をじっくりとご覧ください。(中)